



独り、憧れの白神へ

白神山地

追良瀬川～ウズラ石沢

栗原

【日時】 2006年10月2日～4日

【メンバー】 栗原（単独）

10/2 タクシーで追良瀬大橋に降りたってしまうと独りきり。縦走なら散々独りで歩いているが、沢で独りは初めてだ。どんより曇った空に、期待よりも不安がもたげてくる。もし敗退なんてことになったらタクシー呼べるのかなあ、延々歩いて戻るしかないのかしら、などという不吉な考えを振り払うように、沢スタイルに身を固めて歩き出す。せめて昼過ぎくらいまで雨が降らずにもってくれるといいが…。

林道を30分ほど歩くと堰堤に出る。堰堤の越え方がよく分からなかったが、幸い中からおじさん（電力会社関係者か?）がドアを開けてくれ、すんなりと入渓することができた。まずはゴーロ歩きだ。少し行くと、向こうから二人連れがやってきた。2泊3日で、五郎三郎沢を上って赤石に入り、再び尾根をのっこして戻ってきたという。周遊ルートも楽しそうだなあ、などと考えながら歩いていると、向こうから巡視員のおじさんがやってきた。「独り?」「はい」「この辺は初めて?」「はい、でも仲間が前に入っていて、詳しく状況を聞いています!!」と、入山許可申請のときにも聞かれた内容を繰り返す。「今晚雨になるよ」「ええ、でもあまり大きくは崩れなさそうだから」「夏なら増水してもすぐ引くけど、今の時期増水するとすぐには引かないよ…まあ、気を付けて。」ということで、別れる。再び独りになった。雨がポツリポツリと降り出す。

一ノ沢出合を過ぎると小ゴルジュになる。ちょっと厳しそうだったので左から巻こうとしたら、下のほうが立っておりそのままじゃ降りられそうにない。懸垂になりそうだったので、おとなしく戻ってへつりに挑戦する。へつって、無事クリアー。二ノ沢を過ぎ、五郎三郎の沢を正面に見ると、予定の天場適地だ。ここで私は大きな間違いを犯す。雨が降ってきていたので、早く落ち着きたかった私は、左岸にあった砂場の焚き火跡をテン場適地と勘違いしてしまった。川の流れまでは6-7m離れているので、まあ大丈夫だろうと思ってしまった浅はかさを、後で身をもって知ることとなる。

10/3 しとしとと降っていた雨が、夜半、本降りになった。雨が降るのを分かっている、どうして河原にテントを張ってしまったのか。とりあえず沢靴はテントの中に避難させ、増水が気になりつつもうとうとして、夜中の1時過ぎ、不穏な気配に目が覚める。沢音が近い。テントから覗くと、ヤバイ、増水している!!流れがあと1-2mのところまで迫っていた。あわてて荷物をまとめ、本降りの雨の中、左岸の藪に避難する。どうにかテントを張れるスペースを確保し、増水具合が気になりつつも再度眠りにつく。



朝起きると、天気は曇り。川を見ると、やはり増水している。ふと見ると、藪のすぐ横にちゃんとした天場があったのだった。とりあえずテントの中で様子を見るうち、再び雨が降り出した。秋田地方の天気予報は、「曇り」から「夕方まで曇り一時雨」に変わっていた。停滞も考えるが、そうすると予備日を使うことになる。停滞は最後の手段として今日行けるところまで行くことに決めた。ウズラ石沢出合まで、ガイドブックで4時間。午後になれば少しは水位も下がるだろうから、進めなくなった所でテントを張り、減水を待つという手もある。

左岸を進むが、右岸に渡ろうとして最初の渡渉で危険を感じた。通常膝くらいのはずが腰くらいまで増水している上、濁っており、下手に渡ると流されそうだ。仕方ないので、極力渡渉せず、へつり+高巻き+ゴルジュ(?)突破で行くことにする。対岸に渡渉できれば膝くらいの場所でも腰まで水に使って進むこともしばしば。沢旅のはずが、ゴルジュ突破とは…。いざというときの天場を確認しつつ進む。それでも、時間をかけてウズラ石沢の出合のたどり着いた。ウズラ石沢に入り、普通に渡渉できるようになったときはほっとした。

懸念の10m右壁には、残置ロープがあった。なければ空身で上がってザイルを固定して再度上り返さなければならなかっただろう。小滝群を超えると、ブナ林が見え出した。ブナ林の中に天場を発見し、ようやく安堵する。夕方からは晴れてきた。

10/4 晴れ!!今日の核心は地図読みだ。地図とコンパスとにらめっこしながら遡行する。出発してすぐに1:1の二俣に出た。ここで高度計を合わせ、念のためあんちょこを確認。あれ、ガイドによると最後が山頂と小屋の間に突き上げることになっている…。過去のトマの遡行図を見て、山頂の左肩に出るんだと思い込んでいた。これだと最後が30分の藪こぎになる…。危ない…。再度地図を確認し、c 920mを右に入る。2本ほど右からの枝沢を分けると、水流がなくなり、笹のトンネルに突入。無事、登山道に飛び出した。山頂はすぐそこ、よく晴れた独りきりの山頂に、思わず「やったー!!」と叫ぶ。

だが、さすが世界遺産、平日にもかかわらず、後からわらわら人が登ってきた。テントを干していたので、「あら、独りでテント?えらいわねえ。」などと言われ、気恥ずかしい。この歳で独りで登っても、えらくもなんともないのだが…。地元のおじさんに、周りの山々を教えてもらう。岩木山・八甲田連峰・岩手山・向白神・森吉山などなど…。日本海も陽光に輝いており、2時間ほど山頂でのんびりする。下山途中、山の名前を教えてくださいとおじさんと一緒になり、白神岳登山口駐車場からあきた白神の温泉まで車に乗せてもらった。五能線から電車を乗り継ぎ秋田に出てしまうと、楽しかった旅も終わり、「今度はいつ来よう?次はどこへ行こう?」との想いだけ残して、夜行バスは出発したのだった。



増水している追良瀬川



ブナ森のテント場



白神岳山頂から

- 【行程】 10/2 追良瀬大橋 (10:30) ~ 堰堤 (10:55) ~ 一ノ沢出合 (13:00)
~ 五郎三郎の滝右岸天場 (15:00)
- 10/3 C1 (7:30) ~ 人面滝 (8:25) ~ 滝ノ沢出合 (9:05) ~ ウズラ石沢出合 (11:50)
~ ブナ森天場適地 (13:55)
- 10/4 C2 (5:50) ~ 登山道 (8:15) ~ 白神岳山頂 (8:20-11:00) ~ 白神岳登山口 (13:40)
- 【地図】 ニツ森・白神岳・十二湖